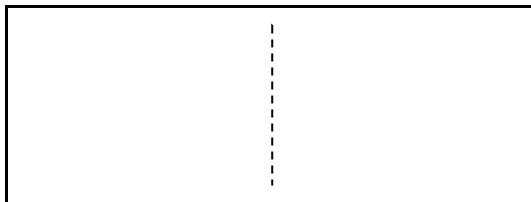


■お薬手帳

1 様式

(1) サイズ

A 5 サイズ用紙を横方向に左右 2 分割 (A 6 × 2) することによりお薬手帳に貼る大きさに近づけます。



(2) レイアウト

(患者氏名) 様	(n 頁)
処方日 (yy/mm/dd)	保険医名 (NNNNNNN)
(rp) (薬剤名	)(用量・単位)
(用法	)(日数)
(rp) (薬剤名	)(用量・単位)
(用法	)(日数)
※ 薬剤情報が終了した場合	
(医療機関名)	
(電話番号)	

項目	内容
患者氏名	患者氏名（漢字）を印字します。フリガナはふりません。患者氏名（漢字）が登録されていない場合は、患者氏名（カナ）を印字します。
頁	現在頁の編集を行い印字します。
処方日	システム日付を印字します。環境設定で変更された場合はその日付となります。
保険医名	請求確認画面のドクターで指定された内容を印字します。
薬剤情報	処方せんとほぼ同様の編集を行い印字します。 処方番号、薬剤名、用量、単位、用法、日数を編集します。
医療機関名	システム管理の医療機関編集情報で設定を行っていればその名称を、そうでなければ医療機関情報－基本で登録されている名称を印字します。薬剤情報が終了した後で印字行があればその頁に印字します。
電話番号	システム管理の医療機関編集情報で設定を行っていればその電話番号を、そうでなければ医療機関情報－基本で登録されている電話番号を印字します。医療機関名を印字した後で印字行があればその頁に印字します。

2 システム管理

管理番号 1001「医療機関情報－基本」で「お薬手帳発行フラグ」を設定します。診療行為の請求確認画面の発行指示の標準動作を決定するための設定となります。よって、発行しないとしていた場合でも請求確認画面で発行するに変更すれば発行はできます。ただし、発行すると設定した場合でも会計内容に院内処方がなければ発行しません。

お薬手帳発行フラグ

0 発行しない	発行しません。
1 発行する（後期高齢）	後期高齢者の場合は発行します。 訂正時も発行します。
2 発行する（後期高齢）（訂正時なし）	後期高齢者の場合は発行します。 ただし、訂正時は発行しません。
3 発行する	全患者発行します。 訂正時も発行します。
4 発行する（訂正時なし）	全患者発行します。 ただし、訂正時は発行しません。

管理番号 1031「出力先プリンタ割り当て情報」で「お薬手帳」のプリンタ名を設定します。出力するプリンタ名はA5サイズを印刷できる設定のものを設定します。
また、標準プログラムとは別に独自開発プログラムの登録も可能とします。

3 運用

(1)発行指示

請求確認画面でお薬手帳の発行指示をします。初期表示は管理番号 1001 のお薬手帳発行フラグ、会計内の投薬有無により決定します。また、処方せん料を算定している場合（院外処方）は発行しないとします。

診療行為の中途終了では、「F6 お薬手帳」、「F7 薬情・手帳」を追加しました。

4 カスタマイズ情報

お薬手帳を発行する場合は、オンラインプログラムからサブルーチン ORCSCH62を呼び出し、このプログラムからお薬手帳の編集プログラム（標準プログラムでは ORCHC62、システム管理に独自開発プログラムを指定した場合はそのプログラム）を呼び出します。

親プログラムとなる ORCSCH62 側で対象となる処方のデータを抽出し COPY 句（CPORCHC62.INI）を介してお薬手帳の編集プログラムへ渡します。